

冠省

Akikawa 50『5,715人のサムライ達へ』を落掌。有難うございました。挿絵写真の一つ一つに創設当時の想い出が甦り、懐旧の情ひとしおの感に浸りました。あれから約半世紀、光陰矢の如しを、あらためて痛感しています。

小生、お陰様で健康。まだ「よぼよぼの老人」とまではいかず、句会や、同窓会への出席、依頼原稿の執筆などで忙しく、毎日を元気に過ごしています。

今年、米寿を迎えた記念に、「暮しの手帖社」編で随筆集『遅々庵ずいひつー昭和一桁の眩き』（四六判208ページ）を上梓しました。割と好評のようで、関心のある方はインターネットに「遅々庵ずいひつー」または「昭和一桁の眩き」を開いて見てください。内容についての批評が載っています。

同封の小論は「関門北九州ファンクラブ」の依頼で、私の母校の前身福岡県立築上中学校（旧制）の創設について論じたものです。私の母校も九十四年の歴史と伝統を持ちながら人口減に伴う教育予算の縮小から、秋川同様、先年、廃校の憂き目にあいました。これは、その挽歌のつもりで書きましたが、多感な青春の思い出がいっぱい詰まる中学（旧制）・高校の廃校は限りなく寂しい。春・夏の高校選抜野球の折などは、なおさら。

この『50年』に溢れる「サムライ」たちの元気な声にも、その裏に、同じ寂しさを感じるのは私一人だろうか。長い目で見れば、秋川の廃校は、東京都、いや日本の将来にとって、大きな損失だと思おうのですが……。

九月に入って朝夕は幾らか凌ぎ易くなりました。くれぐれもご自愛のほどを。サムライ諸君のご健勝を祈ります。

九月十一日

AKIKAWA 50

実行委員会

中

中村 裕

旧築上郡と中学校

旧築上郡（現、豊前市と上毛町及び築上町）は、県庁所在地からも遠く、福岡県の東南隅に偏在する農村地帯として、幾分、影の薄い感も否めなかったが、しかし、明治の末頃には、農業のほかにも、小規模ながら商・工業、水産業が八屋・宇島地区を中心に発達しており、豊前水産組合などは、遠く朝鮮半島南端の巨済島に根拠地を設けて出漁するほどの活動ぶりを見せていた。

実業の分野だけではない。郡内には古く「蔵春園」（文政七年開設・薬師寺村）や、「乗桂教校」（明治十年開設・八屋町）といった教育機関も設立されており、京築地方における「智」の中核を成していた。

前者は、碩儒広瀬淡窓の弟子、恒遠醒窓が開いた漢学塾で、入塾者の出身地は九州・中国・四国全域から関西に及ぶ広範囲にわたり、幕末の尊王攘夷運動にも多大な影響を与えた。

かつて多くの青少年を奮い立たせた「男児志を立てて郷関を出づ、学若し成る無くんば復た還らず・・・」の作詩者として知られる長州の勤王僧月性も醒窓門下の一人。天保二年（1831）十五歳から四年間、醒窓に詩文を教わり、優れた詩人としての基礎を作った。

後に、幕末の志士、吉田松陰や頼三樹三郎らとも親交を結んだが、尊王攘夷の具体策として海防策を説いたその著書『仏法護国論』（安政三年刊）は数版を重ね、広く、勤王の志士や護法家たちに読まれたという。

後者「乗桂教校」は、豊前の豪商小今井潤治（乗桂）によって設立された真宗学徒育成の仏教専門学校である。

当時、浄土真宗の大教校としては、本山直属の一枚（現、龍谷大学）のみであったが、潤治は乗桂教校を、この本山直属の大教校と同格の学校に昇格させ、寺院の子弟など約三千名を育成した。中から仏教大学教授・勸学寮頭を歴任した雲山竜珠や杉紫郎勸学（「勸学」は教学面での最高位の称号）といった碩学・高德も輩出している。



—恒遠醒窓—

東京旭桜会元会長 中村 格  
こうした影響もあってか、郡民一般の意識も農村地帯にしては珍しく向学心に富み、例えば、現豊前市域内に限って言えば、明治五年（1872）、「学制」頒布の当初は、八屋地区に一校のみであった小学校が、翌々年には二十一校に増え、その就学率も全国平均を遥かに上回るものであったという（豊前市史）。

明治十二年、豊津藩の藩校育徳館が県立豊津中学として発足するが、翌年、県民の要望に応じて、さらに、その分校として、小倉分校（後の小倉中学）・香春分校と共に、郡内の八屋に八屋分校が設置されたのも、県当局がこの地方における向学の気風を認めていたからであろう。

実は、豊津中学発足の年に、当郡内に於いても、有志による中学設立の計画があったが、資金不足から諦めざるを得なかった。その計画が、図らずも中学八屋分校として形を変え、実現したというわけである。郡民の喜びは、ひとしお深いものがあつたに違いない。当時の中学校は、その地方における最高学府であり、憧れと尊敬の的であった。

中学は初等科・高等科の二段階に分けられ、後年の中学校に相当する初等科（豊津中学及びその三分校もこれ）の修業年限は四年。八屋分校の教師は、校長の伴誠二郎（旧千束藩侍講）ほか五名で、明治十四年の在籍生徒数は五十五名。同十七年には第一回卒業生を出している。



—中学八屋分校卒業証書—

しかし、折角の中学分校も長続きしなかった。福岡県は、財政難から県下の本・分校十九校のうち、豊津本校など九校を残して整理せざるを得なくなったのだ。

八屋分校は、一旦、町村立として存続を図るなど手を打ったが、地方財政の窮乏から、それでも叶わず、開設からわずか五年後の明治十七年、惜しくも廃校となった。

当地に県立中学が再び設立されるのは大正七年。廃校から実に三十四年後のことであった。（つづく）

① かんもの北九州ファンクラブ 123号の合は、このようにフピにしましめ。

甲

◇ふるさと情報◇

**ト仙の郷が改装オープン（豊前市）**  
豊前市の総合交流促進施設「ト仙の郷」が約1年半かけて進めてきた管内改修が終了してリニューアルオープンしている。地元求菩提の薬草を使った薬湯も新設している。ト仙の郷は市が求菩提観光の拠点施設として1999年にオープンし、2015年から「くぼて鷹勝」が引き継いでいる。薬湯の他に喫茶・バー、軽食コーナーを設け、玄關そばにヤリイカ専用のいけすもあり、活きつくりも楽しめる。1999年には12

万7千人の入浴者だったものが2015年時点では5万1千人にまで減少していた。東九州自動車道の開通によって至便になっており、別府、湯布院に劣らない施設にすることで来場者の復活を目指している。

**コスタ行橋近くに新駅（行橋市）**  
行橋市と第三セクター平成筑豊鉄道が大型複合商業施設「コスタ行橋」の近くに新駅を建設することが決まった。行橋駅と美夜古泉駅の間に建設し、2020年度の開通を目指す。



ホームページアドレス  
http://kan-kita.com

# かんもん 北九州ファンクラブ

【第124号】 2017年7月1日発行 隔月刊

会報委員長 〒104-0054 東京都中央区勝どき 6-3-1-5813  
TEL&FAX:03-6794-0288/ isamu\_ohki@jcom.home.ne.jp 大鬼 諫

◇7月ミニ講演会案内◇ **卑弥呼の謎を解く**

講師：貝島資邦（会員・ペンネーム萱嶋伊都男）

すでに「歴史ロマンを語る会」同好会員の皆様は、貝島様の講演を4月28日の歴ロ会でお聞きになった方もおられると思いますが、7月のミニ講演会ではこの内容とは別に「卑弥呼の謎」について調査結果を語っていただきます。このお話は以前貝島様から概説をお聞きしたのですが、それだけでもドキドキしてとても面白いものでした。そしてその後さらに調査がすすみ、決定的なことがわかってきたのだそうです。

この講演会は絶対逃せません。多くの方の参加をお願いします、ご案内します。 担当：梅原英毅（副代表）

記

1. 日時；7月12日（水） 18；15～20：00  
参加される方は18時までに着席下さい。
2. 講演：貝島資邦氏（会員＊）  
＊貝島様は有名な貝島炭鉱の元経営者のご一統です。
3. 場所：九工大鳳龍クラブ（03-3572-2009）  
港区新橋2-20-15（新橋駅前ビル1号館5F）
4. 参加費：1000円（懇親会費は別です。）

参加希望者は7/10までにメールかFAXでお知らせください。

メール： kankitafc@googlegroups.com

FAX： 044-741-3275

なお、講演者貝島様から下記案内文が来ております。

4月28日に行った歴ロ会での講演は演題「絹で解けた邪馬台国の謎」でした。その概要は、P04で報告の通りで、弥生時代の「絹」の出土は福岡、佐賀、長崎の北部九州3県に限られており、この事実が邪馬台国の謎を解くカギを握ることを。

魏志倭人伝に邪馬台国は絹の豊かな国と記されており、北部九州以外考えられません。詳しくは講演会で。歴ロで話さなかった「絹の伝来」、また福岡が日本発祥の地であることも合わせて詳しくお話します。

☆8月暑気払いのご案内☆

**暑気払いで楽しい集いを**

担当 副代表 広瀬知也(火の山天狗)

記

毎年恒例、故郷の食材を肴に盛り上がる当会の夏の風物詩、暑気払いです。

今年は何が出てくるかな？ 私はかんもん北九州は「食材王国」だと思っています。

故郷を肴にふるさと情報の交換をしてリフレッシュしましょう。

下記要領で行いますので大勢の皆様の参加をお待ちしています。カラオケは禁止ですが、お酒、焼酎、ワイン等の持ち込みは大歓迎です。

- 1 日時 2017年8月9日(水) 18時から20時
- 2 場所 九州工大鳳龍クラブ 03-3572-2009  
港区新橋2-20-5 新橋駅前ビル1号館5階
- 3 会費 4000円
- 4 申込みは 8月6日まで

メール： kankitafc@gmail.com

又は hinoyama-tengu@ezweb.ne.jp

会報表紙裏の連絡票も利用出来ます。

目次

P 2 5月ミニ講演会報告	P 8 投稿 クラコー 中野素昂	P 14 北九州市情報 UIターン
P 3 同 講師葉月けめこ	P 9 下商同窓会報告	P 15 池永所長就任挨拶
P 4 第1回歴ロ会講演会	下商と楽天学校 ふくとふぐ	北九州地区情報 各種
P 5 同 講師 貝島資邦	P 10 大相撲5月場所戦績	P 16 歴史講演会案内
P 6 築上中部物語Ⅲ 中村格	サッカー ギラヴァとレノファ	幹事会報告 新入会員情報
P 7 在京高校同窓会案内	P 11 投稿 近藤進茂氏紹介	編集後記
下関西高校 八幡高校	昆虫展その後 ドールハウスその後	協賛広告 (ア〜オ順) ご協力に感謝
同報告 東京錦陵会	自己紹介 岡村信幸 小林寛重	アイエフシーP5 うに甚P13
関東磯陵会 西南女学院	P 12 下関市情報 イスタンブール友好	北九州予備校P9 ギラヴァ北九州P10
P 8 新 合縁奇縁 藤城昌三	P 13 下関地区情報 各種	湖月堂P6

②

築上中部高校物語 III

築上中学校の誕生 (承前)

東京旭桜会元会長 中村 格

明治後期から大正・昭和前期にかけて、郡内からも優れた人物が輩出した。学界では、社会倫理学の泰斗東京文理科大学教授友枝高彦(大村)をはじめ、日本機械工学の第一人者として知られる東大教授内丸最一郎(香川)、日本地理学会の最高権威者で、昭和の伊能忠敬と仰がれた東京文理科大学教授田中啓爾(三毛門)。

経済界では、吉田内閣の経済最高顧問や鳩山内閣の経済懇談会委員として日本経済の進路策定に貢献した元関西経済連合会理事岡橋林(八屋)、医学界では東大医学部で内科・物理療法の権威者として名を馳せた田原鎮雄(松江)等々、枚挙に遑がない。なお、「丘を越えて」をはじめ、レコード歌謡の作詞者としてお馴染みの島田芳文(久路土)、『丹下左膳』で知られた時代劇のトップ・スター大河内伝次郎(大河内)、戸畑大橋公園に立つ青年像「大気」の制作者として著名な彫刻家中野素昂(松江)なども見落としてはなるまい。東京豊島区千川にあった素昂のアトリエ跡は、現在、区立千川彫刻公園となり、園内に立つ素昂制作のブロンズ像「空を見上げる」と共に区民に親しまれている。

しかし、こうした先輩達の少年期には、郡内にまだ中学校が無かったため、遠い豊津中学か、または県外の中津中学などに進学せざるを得なかった。自宅から通えないとなれば、下宿か寄宿舎に入るしかなく、学費が高む。加えて県外の中学は、他県の故をもって、月謝も入試のハードルも高く、進捗には不利な条件が少なくなかった。しかし、時勢の進展とともに、進学希望も年ごとに高まり、中学設立の願いは切実となる。中学八屋分校の閉鎖から既に三十数年も経過していた。

大正6年(1917)、時の福岡県県会議長神崎勲氏、前県議員井上吉太郎氏、郡長山口良介氏らが中心となって中学設立を県当局に懇願した。折から当郡城井村出身の炭鉱王蔵内保房氏は11万円を、また郡内有志による敷地1万坪寄付などの協力があり、その熱意が県当局を動かした。かくて18万7千5百円の予算が宛がわれ、築上中学校の新設が決定したのである。

蔵内氏の寄付金「11万円」とは、当時の巡查の初任給18円(現在、高卒で17万7千3百円)を基準に考えれば、現在の約11億円に相当する巨額であった。

翌、7年4月15日に第一回入学式が挙行されたが、

新入生の中には18歳の青年もいたという。通常より5、6歳も年長である。中学設立がいかにも待たれていたかが窺えよう。この一期生から憧れの一高や五高へ進学した者もいた。そのうちの一人西畑正倫(高田)は、建設省都市計画中央審議員・社



—開校記念誌(大正9年)—

団法人都市計画コンサルタント協会長などの要職に在って戦後の首都圏整備、都市計画を強力に推進した功績で広く知られている。

築中は軍事教練にも力を入れたため、毎年の教練査閲では優秀な成績を収め、陸・海軍諸学校に進む者も少なくなかった。陸軍最初の特攻、万葉隊の隊長岩本益臣少佐(大河内)、人間魚雷「回天」特攻の上西徳英少尉(山田)、その残酷な特攻作戦を企画命令したのは誰れか、それを含めて敗戦の責任を問い詰めたNHKスペシャル『日本海軍400時間の証言』の超一級資料となった「海軍反省会」の録音テープを密かに保管してきた元艦隊参謀平塚清一少佐(湊)などは、近年、マスコミの話題となっただけに御存知の方も多かるう。

岩本は、跳飛爆撃(超高空・超高速で目標艦に接近しつつ爆弾を一度海面に落とし、「水切り」のように反跳させて命中させる攻撃法)の第一人者として知られたパイロットで、飛行機による体当たり攻撃を人材と航空機の損失と考えていたが、操縦技術抜群の腕前が仇となった。陸軍も、海軍の特攻に劣らぬ戦果を挙げたかったのだ。その悲運の生涯は高木俊朗『陸軍特別攻撃隊』(文芸春秋社)に詳しく伝えている。

上西については、筆者が朝日新聞「論壇」に寄稿した記事(昭和57年8月15日付)が端緒となり、その絶筆「お父さんの髭は痛かった」が、先年、NHKテレビで放映され、多くの感動を呼んだ。なお、平塚は兵学校を首席で卒業した恩賜の短剣組。戦後航空自衛隊第4術科学校の校長を務め、平成27年、98歳で死去した。

協賛  
広告

こ栗菓子 湖月堂

本店 〒802-0006 北九州市小倉北区魚町1-3-11

TEL 093-521-0753

本社 〒802-8691 福岡県北九州市小倉北区赤坂海岸3番2号

TEL 093-541-0961

フリーダイヤル 0120-47-0961

Fax 093-541-3756



栗饅頭の湖月堂

菓子業一筋、松本清張にも愛されて今日に至っています。日露戦争勝利を愛でた勝ち栗からの命名された由緒ある「栗饅頭」を御茶受けに、ご進物にご利用下さい。

HPアドレス <http://www.kogetsudo.com>